

レッスン19

https://1drv.ms/p/s!Aouy8oyeIrHHqha_PoksnQtVG3Jt?e=434Me8

↑パワーポイントによるレッスンプランです

A. お祈りの暗唱と暗記

いつものようにお祈りでクラスを始めましょう。それから、レッスン17で暗記し始めたお祈りの暗記が進むよう助けます。

B. 歌(前に習った歌の復習を含む)

Busy Hands

CHORUS:

C F
Busy hands make happy children

C G
Happy children can be found

C F
Making other people happy

C F G C
Spreading peace and love around

C F
Working hands to build a new world

C G
Everybody has a role

C F
All of us can be so thankful

C F G C
For we soon shall reach our goal

CHORUS

God will help us build a new world
Where we all help someone else
All of us will love our neighbour
More than we love our own selves

CHORUS (*with last line repeated*)

C. 引用文の暗記

このレッスンで子どもたちは信頼性についての引用文を暗記します。このテーマの紹介として次のような説明を使うことができます。

神様の目に最高と認められる資質の一つに、信頼性があります。信頼される人は、誠実で正直です。その人の言葉と行いは一致します。言っていることと、することとが違ってはなりません。行いはいつも、言うことと同じでなければなりません。私たちが信頼される人であれば、周りの人たちは、私たちが責任をもって義務を果たすよう最善を尽くすと信用してくれます。このようにすると、誰もが自分の役割を果たすと分かり、仲良く働くことができます。信頼の重要性を忘れないようにするため、次の引用文を暗記しましょう。

信頼性は人々を平穏と安全に導く最大の門戸^{もんこ}である。¹²¹

<信頼性> (=信頼に値する、信頼できる)

1. アソス君は夕食の準備を手伝うとお母さんに約束しました。友だちが遊ぼうよと誘いに来たけど、お母さんとの約束を思い出して、友だちにまた次の機会に遊ぼうと言いました。アソス君は信頼性という美徳を示しました。
2. スニタちゃんは、家族のためにお店に品物を取りに行きましたが、それらの支払いに要するだけのお金を持ってきませんでした。スニタちゃんは、不足分を翌日払いにすることができるかとお店の人に尋ねました。お店の人は、スニタちゃんは信頼できる人で、約束を守ると知っていたので、明日払えばいいと言いました。

<平穏>

1. エミリオ君は大事なことを決めなければならないときはいつも、静かに考え、瞑想できる場所を探します。エミリオ君は近くの静かな庭園に行きます。その平穏は、心と気持ちをはっきりさせてくれます。
2. 台風が去ると、通常、全てが静かになります。嵐の後は平和と平穏が戻ります。

<安全>

1. 動物の赤ちゃんが怖がっている時は、お母さんが赤ちゃんを守るために走ってきます。お母さんは赤ちゃんに安全を与えます。
2. ハイカーは山登りに出かけ、森の中で迷ってしまいました。その時、村からガイドたちが彼を探しにきました。ガイドたちが自分を見つけてくれた時、彼は、ガイドたちは安全に導いてくれると知って、安心しました。

D. お話

何年も前のこと、バハイ信教の初期の頃、バハイの数はほんのわずかで、数カ国に散らばっていました。彼らはたくさんの課題に直面し、しばしば聖地のアブドル・バハに知らせや質問を書きました。それらの手紙は、アブドル・バハに届くまでに長い道のりを通り、アブドル・バハは大きな愛と心遣いをもってそれら一つ一つにお返事されました。彼の励ましの言葉はバハイたちを強くし、彼らの心を元気づけました。ですから、この交流の流れが邪魔されないようにすることはとても大切なことでした。

当時、その地域にムハンマド・タキというバハイが住んでいました。彼はかなり前、まだ若いときにペルシャからやって来て小さな商売をしていました。次第に、彼はその揺るぎない信頼性で知られるようになり、聖地にいらっしゃるアブドル・バハへのお手紙と、外国へ送られたその返事は、ムハンマド・タキの家を通して行われるほどでした。皆が、彼は一つ一つの手紙を速やかに、安全に配達してくれると信頼していました。

しかし、それから、信教の敵がアブドル・バハに反対して立ち上がりました。敵は、人々がアブドル・バハに示す愛と尊敬に嫉妬しました。彼らは、アブドル・バハの追放か、それどころか、処刑を願っていました。スパイが彼の家のいたるところに張り付いていて、アブドル・バハは常に監視されていました。敵は、アブドル・バハと他国に住む献身的なバハイたちとの交信やつながりを止めることができたならどれほど喜んだでしょう。さらに、当局を誤解させるような書類を盗むことができたならもっと喜んだことでしょう。

しかしながら、アブドル・バハを妨^{さまた}げることはできませんでした。しばしば、夜遅くまで、ランプの下で手紙を書いておられるアブドル・バハの姿が見られました。なぜなら、彼は手紙のやり取りの安全な手段を確保しておられたからです。彼はどうされたと思いますか？

もちろん、アブドル・バハは、敵がムハンマド・タキの行なっている仕事の重要性を認めていることをご存知でした。敵たちは、間違いなく、彼のところを経由する手紙を奪おうとするでしょう。そこで、アブドル・バハはムハンマド・タキを、危険のない、隣国の近くの場所へ送られました。そして、敵が疑わなかった人たちが、聖地からムハンマド・タキのところへすべての手紙を運びました。ムハンマド・タキは、その安全な地点から手紙を忠実に受取り、送り続け、アブドル・バハの信頼を揺るがすことはありませんでした。このように、最も困難な時でさえも、聖地との交信は決して断たれることなく、導きは最も遠い国のバハイたちにも途切れることなく届けられたのでした。

E. ゲーム: 案内人

子どもたちは二人一組になり、一人が目隠しをして、もう一方の子はその子の手をとって物につまずいたりしないよう、導きながら一緒に歩きます。さらにチャレンジして、例えば、木や溝、石やタイヤなどの障害物を置いて、それらをうまく避けるように導きます。お互いの信頼が築かれると、目隠しした子を言葉だけで導くようになります。この場合、ガイドはそばについていて、つまずいて転んだりすることのないようにします。別のやり方として、子ども達は全員目隠しをして、列車のようにつながり、子どもたちの1人、または先生がそれを導くというものもあります。

F. ぬり絵 19

G. 終わりの祈り



しんらいせい へいおん あんぜん みちび さいだい もんこ
信頼性は人々を平穏と安全に導く最大の門戸である。